中・四国地方の古代山城

岡山市教育委員会文化財課長　出宮徳尚氏

出宮徳尚（でみや・とくひさ）

昭和42年、明治大学文学部史学地理学科卒業。岡山市教育委員会勤務。平成12年から現職。主な論文に「吉備の古代山城試論」（『考古学研究』）、「古代山城試論」（『日本古代史論苑』）、「古代山城再考」「瀬戸内の古代山城」「古代山城跡の検証覚書」「戦国城郭の構成試論」など。

1　はじめに

岡山というよりも古代の政治的・文化的な中心であった吉備（きび）の国から来ました。私は今、考古学の世界に身を置いています。先ほど磯村先生のお話にありました埋蔵文化財といった場合、地下の文化財でなかなか見つけづらい面がありますが、実は地上に出ている埋蔵文化財もたくさんあるわけです。その典型的なものが古墳です。それからもう一つが城跡です。岡山の例をとると、岡山県内で約一万カ所の古墳があります。それに対して城跡は約千カ所、もう少し詳しくいうと九百カ所くらいです。ですから、いわゆる発掘調査をしなくても的確に分かる遺跡が古墳と城跡。特異な部類に入りますが、そういうことから私たちは発掘調査をしないまでも、ある程度データの収集ができる。私の場合は城跡から考古学の世界に入ったという経緯がありますので、偏見と独善のものの見方をするかもしれませんので、あらかじめお断りさせていただきたいと思います。

2　古代山城の立地と防御

資料1は古代山城の要目（77ページの一覧表を参照）で、考古学的な問題より文献史料や立地など、いわゆるデータリングの処理をしたものです。資料2は古代山城の平面図（縄張り図）と立体図（外

郭立地状態図）というにはおこがましいのですが、高さ、古代山城がどういう立ち上がりをしているかというものを掲げています（79ページの一覧表を参照）。

なぜ、この図面を作ったか。本音を言いますと、私が中学生くらいのときはプラモデルのブームでした。戦艦大和は横から見たらこうなって、上から見たらどうなるかと、それと十八インチ砲が九門あるとかそういう要目がデータとして載っているわけです。そういうちょっとマニアックな子供のときの見方を古代山城に当てはめて作ったのがこの図です。学界的には、的を射ているかどうかという問題はあります。

まず、図cの北九州の古代山城を見ていただきますと、ほぼ同じ立ち上がり図になっています。それに対して瀬戸内海沿岸の神籠石は、すべて三角形というよりも台形に近い形が採用されています。朝鮮式山城は両方あり、地域的に見た場合、北部九州と瀬戸内の城ではやはり立ち上がりが違っています。ということは、基本的に用兵や兵器として使う場合の考え方が違うのではないかという観点をもっています。

分布図を見ると、瀬戸内の城は原則として個別で造られています。有明海沿岸の城は中世あるいは戦国時代の城の観点で言うと、支城網、いわゆる本城があって出城が配置されるという造り方をしています。これは戦国時代の城の見方を援用しています。この観点は江戸時代の学者が戦国時代の城を分類したわけです。昔の考えですから一国一城制を想像していただくといいかと思いますが、一国を守る、全体で言えば日本を守るという言葉に置き換えてもよい「国堅固の城」、それから地域を守る城として「所堅固の城」があります。戦国時代でいうと一国のなかの一郡とか二郡を守るために造られ

た中核的な城です。城だけの、いわゆる戦術拠点の城を「城堅固の城」と言います。そういう観点から見ていくと、瀬戸内海沿岸の城々は一つで城の機能を持たされていると言えます。助けを求めてほかと連携して戦うのではなく、一つの城として機能を全うするというコンセプトで造られているのではないかという気がします。

吉備の国の場合、大廻小廻と鬼ノ城と、備後には遺構が見つかっていませんが、茨城と常城という城があることになっています。これらの城はあくまで城ですので、それの兵站基地というのを考えないといけないわけです。そうすると鬼ノ城と大廻小廻の場合は、最初に大和政権が重点的に置いた吉備への拠点である児島の屯倉があります。これは内海の要路で博多から関門海峡を通って畿内へ行く場合、必ず中継基地として寄らないといけない要所です。それを兵站基地にして吉備内部に城を造ったのではないかという観点を持っています。

もう一点、あくまで古代の山城をどう考えるかというときに、子供の遊びを例にとってよいかどうか分かりませんが、「かくれんぼ」で見るのか、「鬼ごっこ」で見るのかというのが古代の山城を見る基本的な視点になります。「鬼ごっこ」はある程度敵味方、鬼と逃げるほう、あるいは鬼を誘うほうとに別れて行います。「かくれんぼ」は隠れて見つからないようにするもので、あくまで籠って敵の侵略をやり過ごす。ですから、城を積極的に使ってやって来る敵、当時の想定では唐・新羅の連合軍ですが、そういう敵を積極的に迎え撃つ。いわゆる兵器として考えているかどうかが、「古代の城」の評価の分かれ道になるのではないかと思います。

次に、古代山城の写真を見ながら説明します。

（1）鬼ノ城（岡山県総社市）

①が鬼ノ城の遠景です。②が今、復元している角楼という櫓の跡の基底部だけです。現在、城門は③のような形で復元されています。④はこの城門をアップで見た状況です。⑤は城門の内部です。観音開きになっており左右に開きます。内部に階段を設けて通路が続いていますが、外部にも通路があります。⑥が復元の城壁の形態です。向こう側に城門が見え、その手前に石塁が続いています。その手前は版築による「土塁」の復元になっています。根のほうに石垣が残っているのが見えます。⑦のように鬼ノ城の場合は城壁の外側に通路となる石敷きが見えます。俯瞰していますのでよく分かると思いますが、城壁の天端のところが未処理に終わっていますが、その内側に石塁というか石敷きをして、これが兵員の展開線になると思います。ここに近世の城でいうと土塀にあたる遮蔽設備が付きます。前面にやはり通路の石敷きがある構造が分かっています。

⑧は、それに対して、よくいわれている神籠石にあたるのが下端の延べ石です。本来ここからこちらが城壁部分にあたる場です。⑨はいわゆる城壁の天端、上側です。ここが天端の石敷きで、ここで城壁、先ほど言いました近世城郭でいうと土塀にあたるものが建つ場所です。⑩は城門です。⑪のようにこういう城門が四カ所見つかっています。⑫も城門です。この北の城門はここにちゃんと排水溝が出ています。⑬も城門です。⑭は水門です。ここの場合は石塁の上、土塁の下に通水口を設けています。⑮も同じような通水口です。⑯同じような通水口ですが、すでに崩れています。⑰が通水口です。⑱が遠望ですね。児島の屯倉は、このあたりにあたります。⑲は石塁の状況です。⑳は見づらいですが、三間×三間の礎石建物跡です。今、五、六棟が城内で見つかっています。

④ 西門　近景

① 鬼ノ城　遠景

⑤ 西門　内部

② 復元中の角楼（櫓の跡）基底部

⑥ 復元された土塁

③ 復元された西門

⑩ 南門

⑦ 城壁の外側に石敷きの
通路がある

⑪ 東門

⑧ 神籠石にあたる延べ石

⑫ 北門

⑨ 城壁上側の石敷き

⑯ 通水口があったが崩れている

⑬ 北門　側面

⑭ 水門

⑰ 通水口

⑱ 鬼ノ城からの遠景

⑮ 通水口

⑲ 石塁（高石垣）

⑳ 礎石建物

（2）大廻小廻山城（岡山市）

㉑に神籠石にあたる延べ石の列石が出て、こちらが城壁にあたる場所です。㉒は水門の発掘状況でこれが通水口です。ここが天端でダムの堰堤のような形で石塁を築いています。谷渡りのところに石塁を築いています。この上部を見ていくと谷渡りのところは石塁ですが、こちらは㉓のようにやはり列石、神籠石状の単石になって山へ上がっていくという構造になっています。㉔は内側から見た状況です。㉕が通水口です。㉖は通水口の内側。㉗は二の木戸です。同じような水門の構造です。㉘は二の木戸の堰堤です。㉙で分かるように、斜面に段を造って、塁を成すのではなく、段を造って城壁を造っているのが大廻小廻山城の特徴です。㉚は発掘状況です。神籠石状の列石があり、土盛りで城壁

を造っています。㉛も同じ状況です。㉜・㉝は同じく列石に角を設けている状況です。㉞が版築ですね。近世の千本搗きに近い非常に緻密な土木技術の状態を示しています。㉟は版築のアップです。このように平行に三～五センチの間隔で千本搗きにしています。これを通称、版築と呼んでいます。

㉒ 水門の発掘状況

㉓ 上部は単石の列石構造になっている

㉔ 石塁の内側

㉑ 大廻小廻山城

㉘ 二の木戸の堰堤

㉕ 通水口

㉙ 段状になっている城壁

㉖ 通水口の内側

㉚ 城壁　発掘状況

㉗ 二の木戸

㉞ 版築と列石

㉛ 列石　発掘状況

㉟ 3～5cm間隔の緻密な版築

㉜ 列石　折れ構造 ①

㉝ 列石　折れ構造 ②

（3）屋嶋城（香川県高松市）

㊱は屋嶋城で、この一帯が城郭になります。㊲は屋嶋城の城門の発掘状況です。それとは別に一カ所、㊳のようにやはり神籠石状の列石があって、ここが斜面になっていて上が天端になるというところも見つかっています。㊴は発掘状況です。ここが門の通路になります。㊵は同じような門の通路で、真ん中が排水溝になっています。㊶が下側から見たところです。石垣があって門があって城内に入るという形になっています。㊷のとおり、城門の近くはやはり内側にもちゃんと列石を設けて土塁状に城壁線を造る意図が発見されています。

㊱ 屋嶋城　遠景

㊲ 城門の発掘状況

㊳ 神籠石状の列石

㊷ 城壁線の構造

㊴ 門の発掘状況

㊵ 門の通路　中央が排水溝

㊶ 城門を下から見たところ

（4）永納山城（愛媛県西条市、今治市）

㊸は永納山（城跡）です。今治の南にあり、今までよく分かっていなかったのですが、これが神籠石状の列石です。㊹のように山に見えます。これはほとんど土を被っていたので今まであまり見つかっていませんが、発掘で神籠石状の列石が出ています。ここからが永納山の評価の分かれるところですが、㊺の神籠石、これは実は「く」の字形にしているのではなくて、土砂で押し流されています。本来は直線で築いてあったものですが、手抜きというのか、安直に造ったというのか、丁寧に造っていないので土砂で押されてこのように転落しているという状況です。㊻のように曲がっているのは、基礎地業がしっかりできていなかったことの現れです。㊼も神籠石です。

㊸ 永納山城跡　列石がある

㊹ 永納山の発掘状況

㊺ 土砂で押し流された列石

㊻ 曲がっている列石

㊼ 列石

(5) 朝鮮半島・中国の都城

㊽は中国の集安、かつての高句麗の首都にある国内城の城壁です。ただ、この城壁がいつの時代かは検証する必要がありますが、一応出しています。㊾は現在よく問題になっている「雉城(ちじょう)」で、城壁を守るための戦闘施設として韓国では「雉城」と呼んでいますが、中国では「馬面」と呼んでいます。突出個所は近世城郭でいう「横矢の掛かり」にあたる城壁構造です。㊿は同じく集安の丸都山城で、逃げ込み用の山城の城壁です。(51)は同じ馬面を反対から見たものです。(52)で見ていただきたいのは城壁の上にある「女墻(めがき)」と呼ばれる設備です。近世城郭の土塀にあたる、射掛けられた矢を盾にするちゃんとした遮蔽の構造物があります。(53)はその関係を上から見たところで、城壁があって女墻があっ

て、なかで兵隊が待機して迎え撃つ。本来、城壁はこういう形で造られたわけです。

㊹は敦煌の近くにある鎖陽城という唐代の城です。見てお分かりのように層になって見えるのが、版築で築かれた状況で、ここへ飛び出しているのが雉城あるいは馬面と呼ばれている、城壁を攀じ登ってくる敵兵を内側から撃つための装置です。㊺のように等間隔になっています。この国には弩がありますので、弩の射程に応じてこういう城壁から前面に飛び出した迎撃装置を設けて城壁を守るという発達した段階を示しています。日本で山城を造る時期、中国ではこうした完成した城壁構造があるという例であげました。非常に雑駁な話になりましたが、本来の山城、用兵の具というか、戦いの場で使う城というのはどんなものであるかということを問題提起させていただきました。

㊽ 中国の集安にある国内城の城壁

㊾ 雉城の城壁構造

㊿ 集安の丸都山城の城壁

㊹ 中国鎖陽城の城壁

㊺ 鎖陽城の城壁

㊶ 丸都山城　城壁

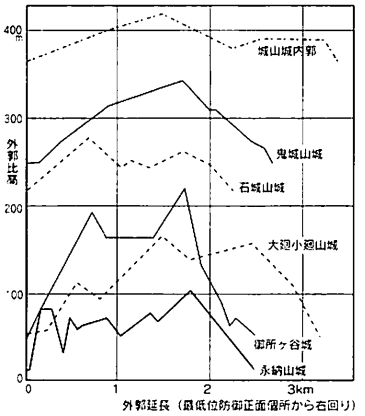
㊷ 城壁の上に女墻がある

㊸ 上から見た城壁

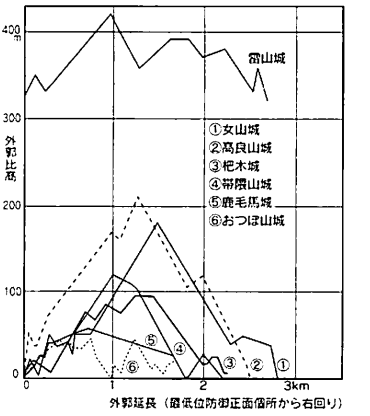
占地形態	指向性	対応性・対応地	国府直経路km	歴史的環境 屯倉km	歴史的環境 国造氏	備考
峻山城	○△	特定 大阪平野	(河内)9			城跡未確定
緩山城	△○	全 山陽盆地 備前平野	6	児島16	上道臣	千丈(3000m)級 隣 太田臣・三野臣
峻山城	○	特定 備前東部平野	5	児島24	加夜臣	千丈(3000m)級 隣 窪屋臣
峻山城	○△*	全 田布施・柳井平野 柳井湾	48		周防直	千丈(3000m)級 隣 大島・都怒
峻山城	*○	全 備讃瀬戸 讃岐平野	20			千三百丈(4000m)級
峻山城	○*△	全 坂出平野・備讃瀬戸 ・国府盆地	1		讃岐公	三千丈(9000m)級全外周7,600m
緩山城	○*	全 今治・東予平野 燧灘	7		小市直	千丈(3000m)級 隣 怒麻
峻山城	○△	全 行橋平野 山間要路	6	平鹿10 桑原15		千丈(3000m)級 屯倉は想定地
緩山城 里型	○△	特定 中津平野 山間要路	20	上膳県		七百丈(2000m)級 県内か隣地
緩山城 里型	△	特定 穎田盆地	37 (豊前)26	鎌 8 穂波10		七百丈(2000m)級
峻山城	○△	全 福岡平野 大宰府盆地	1	那11		千七百丈(5000m)級
峻山城	△	全 大宰府盆地	6			七百丈(2000m)級
緩山城 里型	○*	特定 糸島平野、水道	27			二千丈(7000m)級
峻山城	○*	特定 糸島平野 唐津湾	24	鳴郡屯所15		千丈(3000m)級
峻山城	*	特定 浅茅湾	14			七百丈(2000m)級
緩山城 里型	△	特定 朝倉盆地	朝倉宮 9		筑紫君	七百丈(2000m)級
緩山城	○	特定 筑後平野	1.5		筑紫君	千丈(3000m)級
緩山城 里型	○*	特定 筑後平野	18	八女・上妻	筑紫君	千丈(3000m)級
緩山城 里型	○	特定 佐賀平野	5			千丈(3000m)級 隣 筑志米多君
緩山城 里型	△	全 武雄盆地	32		松 津	七百丈(2000m)級 隣 葛津直
峻山城	△○	全 大宰府盆地 筑後平野	大宰府10			千三百丈(4000m)級
緩山城	○	特定 熊本平野	28			千丈(3000m)級
峻山城		全 =全方位性 特定=特定方向性 ○=沖積平野 △=盆地（内陸部） ※=海岸				
				直線距離	所在地の国造	

資料1　古代山城跡の要目一覧

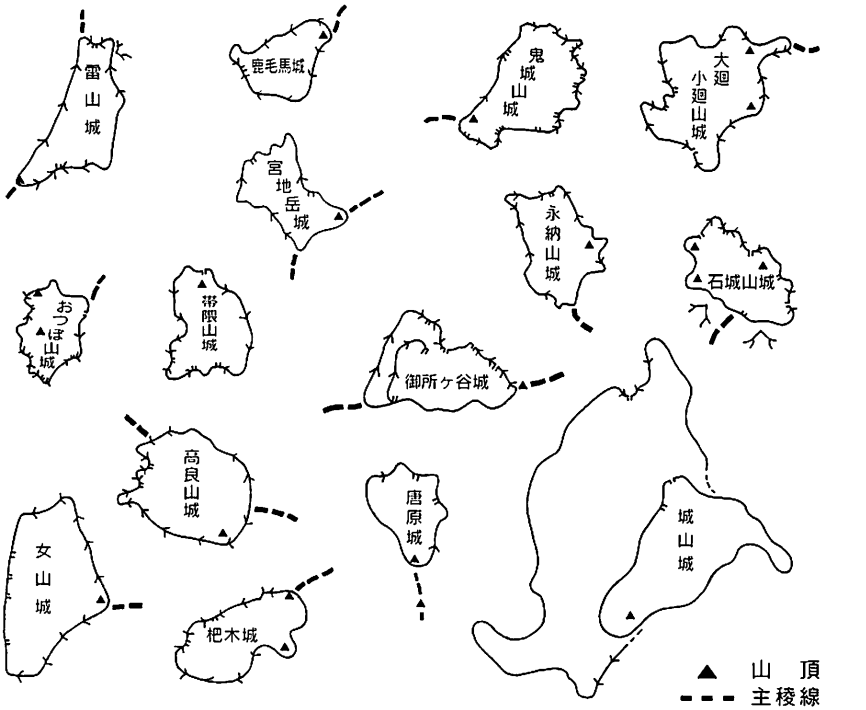
城名	所在地	城壁標高 m	城壁比高 m	全周・周回時間 m　日	抱谷面積/谷 m²	立地
①高安城	畿内・大和国平群郡 （奈良県生駒郡平群町ほか）	?～470	?～420	?　?	?　/?	脊梁山脈山頂部
②大廻小廻山城	山陽・備前国上道郡 （岡山県岡山市草ヶ部）	85～190	55～160	3,200　1/4	23,000/3	独立山塊頂部側面
③鬼城山城	山陽・備中国賀夜郡 （岡山県総社市奥坂ほか）	290～385	250～345	2,800　1/4	28,000/4	山塊別峰山頂
④石城山城	山陽・周防国熊毛郡 （山口県熊毛郡大和町）	275～335	230～290	2,542　1/4	26,100/6	独立山塊頂部
⑤屋嶋城	南海・讃岐国山田郡 （香川県高松市屋島町）	260～280	260～280	3,900　1/4	7,500/1	独立山塊（島）頂部
⑥城山城	南海・讃岐国阿野・鵜足郡 （香川県坂出市西庄町ほか）	外260～370 内375～420	250～360 365～410	5,300　2/4 3,400　1/4	61,000/3	独立山塊頂部
⑦永納山城	南海・伊予国桑村郡 （愛媛県西条市、今治市）	35～110	15～90	2,700　1/4	13,500/1	半独立山塊側面
⑧御所ヶ谷城	西海・豊前国京都郡 （福岡県行橋市津積ほか）	75～240	50～215	2,800　1/4	7,350/2	脊梁山脈山頂山腹
⑨唐原城	西海・豊前国京都郡 （福岡県築上郡大平村）	40～80	10～50	1,700　1/4	8,500/3	丘陵先端部山腹
⑩鹿毛馬城	西海・筑前国嘉麻郡 （福岡県嘉穂郡穎田町）	15～70	0～55	2,000　1/4	22,500/1	丘陵先端部山腹
⑪大野城	西海・筑前国御笠・糟屋郡 （福岡県大野城市瓦田ほか）	外195～400 内220～400	115～360 180～360	6,000　3/4 5,600	233,000/5	独立山塊頂部
⑫宮地岳城	西海・筑前国御笠・糟屋郡 （福岡県大野城市瓦田ほか）	145～380	45～260	2,000　1/4	1,000/2	独立山塊山頂山腹
⑬怡土城	西海・筑前国怡土郡 （福岡県前原市高祖ほか）	30～400	0～370	6,500　4/4	79,500/5	独立山塊山頂斜面
⑭雷山城	西海・筑前国怡土郡 （福岡県前原市雷山）	380～485	320～425	2,600　1/4	60,000/1	脊梁山地中腹山頂
⑮金田城	西海・対馬国下県郡 （長崎県下県郡美津島町）	25～276	25～276	2,200　1/4	5,000/3	山地稜線側面
⑯杷木城	西海・筑前国上座郡 （福岡県朝倉郡杷木町）	55～145	5～95	2,400　1/4	27,000/2	丘陵先端側面
⑰高良山城	西海・筑後国御井郡 （福岡県久留米市御井町）	65～250	25～210	2,700　1/4	39,600/2	山地先端側面
⑱女山城	西海・筑後国上妻郡 （福岡県山門郡瀬高町）	15～190	5～180	3,000　1/4	37,250/3	丘陵先端側面
⑲帯隈山城	西海・肥前国佐嘉・神崎郡 （佐賀県佐賀市久保泉町ほか）	35～150	5～120	2,500　1/4	34,350/4	丘陵先端側面
⑳おつぼ山城	西海・肥前国杵島郡 （佐賀県武雄市橘町）	12～50	0～40	1,870　1/4	36,600/5	丘陵頂部・側面
㉑基肄城	西海・備前国基肄郡 （佐賀県三養基郡基山町）	180～400	110～330	4,000　2/4	30,000/2	山地先端頂部側面
㉒鞠智城	西海・肥後国菊池郡 （熊本県山鹿市菊鹿町）	90～168	40～118	3,500　2/4	750,000/3	台地状丘陵端部
三尾城	東山・近江国高島郡	所在不明				
茨城	山陽・備後国安那郡	所在不明				
常城	山陽・備後国葦田郡	所在不明				
長門城	山陽・長門国豊浦郡	所在不明				
三野城	西海・筑前国那珂郡	所在不明				
稲積城	西海・備前国那珂郡	所在不明				
城山城	山陽・播磨国揖西郡	城壁未詳				内陸山地別峰頂部
備考	律令制の行政区画	海抜高	山麓からの高度	徒歩	谷平地の延面積	



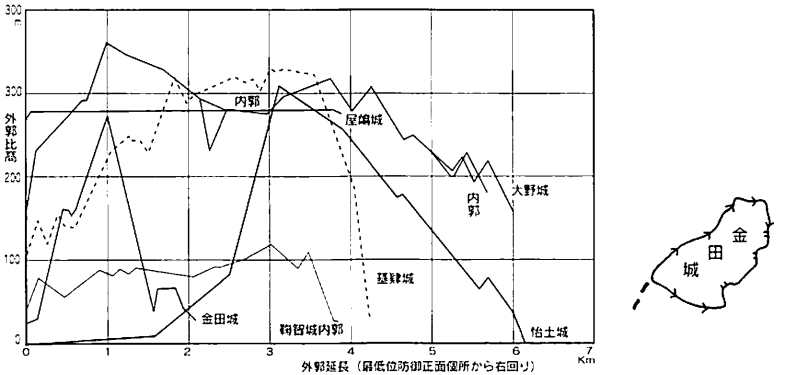
b 瀬戸内海沿岸域神籠石系
山城外郭立地状態図



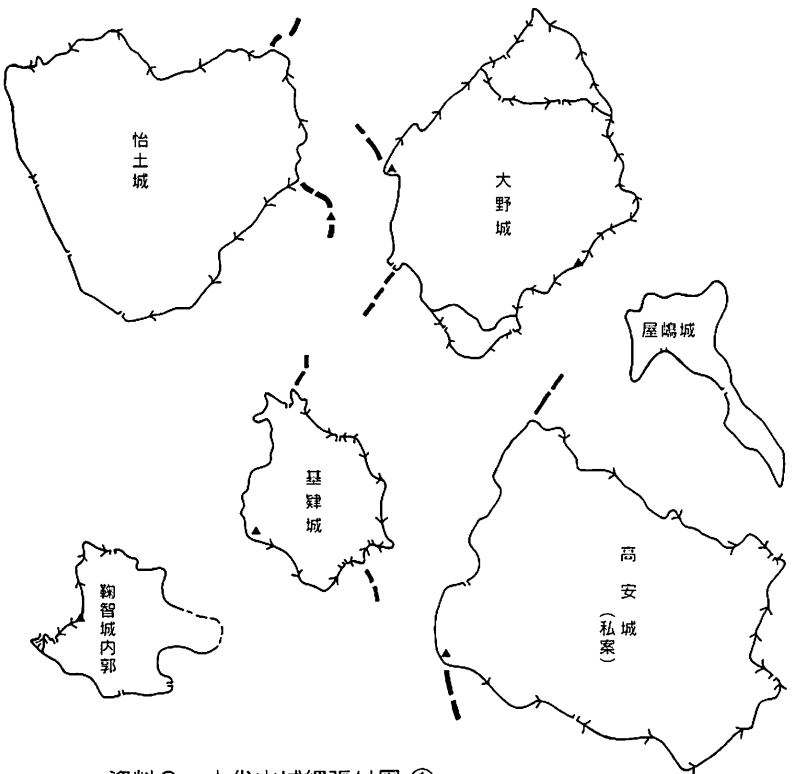
c 北九州神籠石系
山城外郭立地状態図



古代山城縄張り図 ②



a　朝鮮式山城等外郭立地状態図



資料２　古代山城縄張り図 ①
（原図は2万5000分の1で作成）